

本庄南ロータリークラブ



会報

例会日 毎火曜日 19:00~20:00
 例会場 埼玉グランドホテル本庄
 事務所 埼玉グランドホテル本庄内 〒367-004本庄市駅南2-2-1
 Tel : 0495-23-0141 / Fax : 0495-23-0141
 E-mail : rotary@mail.honjo.ne.jp

会長 矢部 一臣 会報広報委員会 / 委員長 飯塚能成
 幹事 星野 栄一 / 委員 木村真純 堀川 明

第70回例会 10月7日(火) 発行 平成20年10月14日

司会 / 奈良橋秋夫 SAA
 点鐘 / 19時00分 矢部一臣会長
 ソング / 国歌斉唱
 奉仕の理想
 四つのテスト斉唱
 ゲスト / 米山奨学生
 早稲田大学院
 国際情報通信研究科
 河合研究室 金相賢 様

あります。肺の筋肉がまひすると、呼吸ができなくなって死に至ることもありますし、足がまひして歩けなくなることもある恐ろしい病気です。

ポリオ撲滅に向けて始動

1979年9月、国際ロータリーは、フィリピンで、生後3か月から36か月の子ども約60万人に対して、5か年計画のポリオ免疫活動を始めました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。

1985年、国際ロータリーでは、ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核を指しますが、ポリオだけでなく、これらの病気についても予防接種を実施することになりました。

1985年は、国連総会で、ユニセフの「予防接種普及事業 (EPI Expanded Programme of Immunization)」推進決議が、国連40周年記念事業となった年でした。当時、各国元首とともに、ロータリーもNGO(非政府組織)として、この決議に賛同、署名しています。

日本では、これに先駆けた1982-83年度、東京のロータリアン(ロータリークラブの会員)たちが、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して子どもをポリオから救うことを計画し、実行しています。

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。日本中のロータリアンの積極的に取り組み、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1999年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。

国際ロータリーでは、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、この間で米貨2億4,700万ドル(約270億円)を集めました。これは目標額の2倍に相当します。

ロータリー100周年に向けて新たな展開

ロータリーが創立100周年を迎える2005年2月にまでにポリオの撲滅を実現しようと、国際ロータリーでは、2002年に、新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」を展開しました。この時点で、ポリオは

会長挨拶

矢部一臣 会長



ポリオ撲滅への闘い

皆様、今晚は。

当クラブは、CLPを形式的に採用しましたが、それが効を奏しているか疑問に感じることがあります。会長がこのような発言をすることは、大変に不謹慎なことでありますが、来月の諮問委員会、12月の年次総会に向けて、山田年度には、より具体的に魅力あるクラブ創りに歩を進めた活動ができるようにすることも本年度の活動の一つと考えています。そこで、当クラブの現状を把握して、より魅力あるクラブ創りを目指すために今回の例会を企画しました。

今日の例会では、根岸良行直前会長からの会員スピーチ頂いた後、皆様とのブレインストーミングにより、当クラブの長期計画について再考したいと思えます。限られた時間ですが、自由な発言を期待します。自由な発想でのブレインストーミングを何度か重ねることにより、全会員による具体的な長期計画ができるものと考えています。よろしく、お願いします。

さて、本日のロータリー情報は、ポリオ撲滅への闘いです。『ロータリージャパン』から紹介させていただきます。ポリオ、ご年配の方には「小児まひ」といった方がわかりやすいかもしれませんが、かつて、日本でも大流行をしたことがあります。ポリオウィルスは手や足などにまひを起こさせることが

99%撲滅したといわれていましたが、残りの1%は、紛争地帯やへき地など、ワクチンを投与するのに困難な地域が多く、それまで以上に多くの資金とを必要としていました。目標額は8,000万ドル(約90億円)です。この結果、2003年6月末の時点で、誓約も含めて億1,150万ドル(約126億円)以上が集まりました。

さて、1979年、ロータリーが初めてポリオの撲滅に乗り出して以来、ロータリアンたちは、もちろんお金を集めていただけではありません。多くのロータリアンが道路もないようなへき地に分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子どもたちに届けるための活動もしています。紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、宗教上などの理由からポリオワクチンの投与を拒む人々を説得したり、さまざまな活動をしてきました。

世界中のさまざまな地域にロータリークラブがあり、ロータリアンたちが活動をしています。それぞれの地域で、ロータリアンたちがさまざまな形で、すべての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

ポリオとの闘いを終わらせるために

ポリオ撲滅に向けて、ロータリアンたちは努力を重ねてきましたが、このために調達した額は、2007年時点で、6億6,300万ドル(約750億円)を上回ります。

2007年11月26日、国際ロータリーは、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ撲滅に必要とされる2億ドルを投入することを発表しました。ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになっています。

ロータリーは、世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)における予防接種活動を直接支援するために、2007年11月から1年以内に、最初の1億ドルを投入していく予定です。世界ポリオ撲滅推進計画とは、世界保健機関(WHO)、国際ロータリー、米国疾病予防管理センター(CDC)、ユニセフが協同して主導する活動です。

ポリオの残る国は、アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの、あと4か国となりました。しかし、最後の闘いはこれまでで一番大変な闘いとなるでしょう。日本ではポリオは遠い昔の話になりましたが、世界には、ポリオの後遺症で苦しんでいる人がたくさんいます。グローバル化した現代のこと、ポリオとの闘いを終わらせない限り、日本に、この恐ろしい病気がまた入ってきてしまうかもしれないのです。

街でポリオ撲滅のための募金を呼びかけているロータリアンを見かけたら、ご協力ください。子どもたちが安心できる未来のために。

《『ロータリージャパン』から》



・次回例会は、10月14日は、みさご寿司において、家族例会(クラブ運営)です。

・10月19日(日)、本庄を楽しく発展させる会「紡」主催の第8回チャリティ坂田明ジャズコンサート(本庄南RC後援)が近づいてきました。皆様のご来場、お協力の程、お願いします。

・11月4日(火)は、ガバナー補佐訪問です。当初のプログラム日程と異なりますので、ご注意下さい。

・11月11日(火)は、ガバナー訪問です。よろしく、お願いします。

会員スピーチ

根岸良行 直前会長



本日の例会テーマは「本庄南RCの長期計画であります。現在の日本を含む世界の政治経済その他さまざまな様子は大変困難なものが有ります。そのなかでロータリーに於きましても規模の減少傾向が見られます。今までの組織の構成がむずかしくなってきた中で、新しく簡素化された組織として「CLP」組織が採用される事となりました。その背景と致しまして、1.弱体化したクラブの蘇生 2.会員数減少への対応 3.時代の変化に対応したクラブ強化があります。またCLPの基本的考え方と致しまして 1.継続した計画の立案(長期計画) 2.全員参加(活性化、親睦) 3.意思決定の際のコンセンサス 4.連続性の促進(3年) 5.将来のリーダーの育成 6.運営の機能化・簡素化などがあげられます。当クラブは前年度地区研修リーダー補佐の下、他クラブに先駆けてCLP制度を導入し、地区に於きましては中規模クラブとして円滑な運営を行っております。浅田前年度地区研修リーダー補佐には心より感謝を申し上げます。本日はこの様な経過を基に、矢部会長、星野幹事の下、全員にてクラブの長期計画策定実行に向けてのアイデアを出し合ってくださいと思います。尚、具体的な計画、確認すべき基本事項として 1.クラブの現状 2.5年後のビジョン 3.具体的達成目標 4.達成方法・計画があげられます。会員皆様には活発で有意義な話し合いをお願いしたいと思います。以上CLP現在までの経過と、私のご挨拶とさせていただきます。お聞き頂き有り難うございました。



ゲスト挨拶

早稲田大学院
国際情報通信研究科
河合研究室 (ドクターコース)
金相賢 様



皆様、今晚は、米山奨学生、早稲田大学院国際情報通信研究科の金相賢です。

いつも、お世話になっています。

パニック症候群は、症状はパニック障害、過呼吸とか、過喚起症候群とも呼ばれることもあります。

突然の動悸や、めまい、息苦しさでパニックになってしまうという形で現れることが多いもので、この症状は乗物恐怖とか、外出恐怖、外食恐怖、留守番恐怖など、いろいろな形で現れてきますが、いずれも、死の恐怖を直接的に感じるというところに特徴があります。動悸や、息苦しさでパニックになった時(パニック発作) このまま死んでしまったらどうしようと不安になってしまうのが、この症状の場合の、第一の特徴だと言えます。「パニック障害」は調査によると、100人中3～4人の割合で発生しているそうです。3%～4%の割合で発生しているとしたら、決して珍しい病気ではありませんし、それによって、命を失ってしまうような病気でもありませんが、患者当人にしてみれば、非常に辛い病気でもあります。

近年、医療の進歩により、脳内の不安にかかわる神経系の機能異常が原因だとわかってきたそうです。心身に無理を続けてストレスが許容量をオーバーすると突然発症するようです。

この病気になりやすいタイプは、緊張状態に置かれることが多い人、無理をしてでも困難に立ち向かう責任感の強い人、NOと言えない人、几帳面・完璧主義の人、自己中心的・わがまま、まじめな人・・・このような人があげられます。

気の弱い人がなりやすいと思われがちですが、意外と、精神的に強い人のほうががんばりすぎてストレスをためてしまい発症することが多いようです。

患者数は男性より女性のほうが多いのですが、この理由についてはまだわかっていません。パニック症候群(パニック障害)の治療には、主に、薬物療法と、精神療法があります。薬物療法では、抗うつ薬として、SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)などが使用されます。また、抗不安薬が使われることもあります。

精神療法では、「認知療法」「行動療法」などが行なわれます。パニック症候群の精神療法である認知療法とは、パニック発作が起きると思われる状態に、想像的、体験的に身をおき、その状態でパニックを起こさず冷静に、感情のコントロールができるような訓練をすることです。そしてもう一つのパニック症候群の精神療法である行動療法とは、実際にパニック発作が起こる場所にあえて行き、段階的に慣らしていく、という方法です。パニック症候群は、少なくとも、重大な結果にいたる病気ではないので、病気なのだとは割り切り、客観視して、地道ながらも前向きに対処していくのがよいといわれています。

ブレーストーミング

テーマ・・・魅力あるクラブづくりを目指しての長期計画。

【現状把握等】

当クラブには、会員の減少傾向にある。

これに伴う事業予算、特に奉仕活動資金の減少は奉仕活動を低迷、停滞させ、如いては、クラブの例会を始めとする活動の活気を失わせている。

会員減少が緩やかに進んできたために会員各自に危機感が希薄であり、具体的な対応策、計画策定していないことは、深刻な問題であると認識する。

少人数クラブであるが故か、会員相互の親睦、交流、各自会員の信頼関係が図られている。

これは、当クラブの設立以来の長所であり、今後、最も維持していきたい点である。

【中・長期計画策定にあたり】

単に大規模、大人数のクラブを目指すことなく、各自相互の信頼関係の中で、一致団結した奉仕活動ができる適正な規模のクラブを目指したい。

会員拡大を図る前提として現在クラブの例会等を現在会員により活気あるものにして活動の活性化を図る。

知恵を出して、事業をおこなう。

これまで実践してきた事業を振り返るとともに実践したい新規事業を制限のない発想で策定し、そのための計画、計画実施方法を次回以降のブレーストーミングのテーマにする。



出席報告

松島雄二 出席委員長

会員数	出席	M U	欠席	出席率
22名	7名	5名	10名	54.5%

例会予定

10月21日 卓話(米山)

講師 国際R I 第257地区 米山奨学部門
米山奨学推進委員会 委員
倉林敏澄 様(児玉RC)

10月28日 移動例会(担当 親睦) 於; Lala

11月4日 ガバナー補佐訪問

11月11日 ガバナー訪問

ニコニコボックス

矢部一臣会長

・・・根岸良行直前会長、今日は、スピーチありがとうございました。

また、会員の皆様からは、ブレーストーミングにおいて、魅力あるクラブづくりに向っての有意義な示唆を頂きありがとうございました。